

教育実習を終えて

長山峻

(令和二年三月卒)

私は、平成二十九年から令和二年までの三年間東温高校に在籍していました。現在は東京の大学でバレーボールとビーチバレーを専門に競技に取り組みながら、教員になるための勉強に励んでいます。私は高校時代から教員を目指し活動していました。卒業後、教育実習生として東温高校に戻ってくることができたことをうれしく思うと同時に、教育実習を引き受けて下さった校長先生を始めとする教職員の方々に改めて感謝申し上げます。

始めの一週間は緊張と不安で思い通りの自分を出せない日々でした。しかし、体育教官室の先生方の気遣いや生徒の明るさに救われ、徐々に環境に慣れていくことができました。初めて教員という立場になって見る授業は、今だからこそ分かる先生方の工夫を多く感じました。生徒一人一人に寄り添い、的確に指導を行う姿を見て、私の教育実習の完成形を想像することができました。実習二週目から本格的に授業実習が始まり、指導案や授業の資料準備に時間を割くことが多くなりました。研究授業をより良いものにするため、反省と改善を繰り返す毎日でした。授業実習だけ

ではなく、生徒との関係作りにも取り組みました。担当させていただいた一年八組や男子バレーボール部の生徒はもちろん、他クラスの生徒とも良好な関係を築くために、昼休みに校内を周回したり、放課後に声を掛けてくれた生徒と話したりと授業だけでなく、生徒と積極的に関わることも教育実習の一つと捉えて過ごしました。教育実習の集大成となる研究授業も今までの授業実習でご指導いただいたことを意識して取り組むことができました。研究授業を終えると肩の荷が降りたと同時に、教育実習の終わりを感じました。教育実習全体を振り返ると、本当にあっという間に過ぎました三週間だったと感じています。初日の講話から始まり、県総体、授業実習、研究授業と忙しいながらも先生方のおかげで充実した実習生活を過ごすことができました。

三週間という短い期間の中で関わって下さった先生方、生徒、男子バレーボール部の部員、全ての方々の支えがあった教育実習を成り立たせることができました。改めて感謝申し上げます。今後は実習生としてではなく、教員として再会できるよう、勉強、人間性を磨いていきたいと思えます。